

ファナック株式会社
2023 年度 第 1 四半期決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨
(2023 年 7 月 28 日開催)

Q. 受注環境について、1Q 受注実績は 1,773 億円でしたが今後の見通しは？ 特に FA 事業における中国、ロボット事業における米国の、需要と供給、競争環境等の状況を教えてください。

A. 受注状況は多少上下がありますが現在の水準が今年度いっぱい続くと予測しています。2Q はもう少し下がり、3Q、4Q は少し戻る予想を立てていますが、流動的だと思っています。

FA 事業における中国の状況は、北京ファナックや機械メーカの在庫削減が始まっていますが、削減スピードは 3 カ月前の見込みより少し緩やかです。引き続き中国での設備投資の様子見が続いており、需要が本格的に回復するには少し時間がかかると思います。中国市場での競争環境は、従来から変化はなく、国外メーカ、中国地場メーカ、台湾メーカ等があります。

ロボットについては、中国市場では在庫調整の側面もありますが、EV のバッテリー等に一齐に設備投資がされたため一段落している側面もあり過渡期と認識しています。

米国市場では、基本的にロボット化の需要はあまり変わっていません。ただ、アメリカの在庫がかなりの水準になったため、削減して適正レベルにもっていく段階ですので、調整の分だけ受注は低調になります。しかしながら、注残がたくさんあるため、売上は期初に見込んだ額を期待しています。

ロボマシ事業についても、中国市場の様子見感が非常に強まっています。FA の国内では機械メーカの在庫水準が高いため発注が減少しています。

Q. 原価率が 3 カ月前の上期予想 64.6%から 1Q 実績 67.4%へ上昇した理由と低減のための対策を教えてください。

A. 基本的に 3 カ月前の状況と同じですが、素材高騰の影響は和らいできており、価格転嫁の効果も徐々に上がってきています。ただ、一番大きな要因は前回の説明会でも説明した通り、在庫調整により当社工場の稼働が落ちていることです。原価率低減に一番効くのはきちんと利益を確保した上での拡販です。またロボット新工場の投資についても、市場環境が変わっているため、慎重な方向に考え直し、既存工場での能増を図り、新しい投資の先送りを含めて検討しています。

Q. 対前年同期比で減収以上の減益となっていますが、ロボットの収益性はどうなっているのでしょうか？

A. 減益の一番大きな要因は在庫調整による工場の稼働減によるものです。ロボットは大半が海外向けであり、円安となると海外での価格交渉がしやすいため、その点から利益率を上げる努力をしています。以前からイニシャルコストだけでなくトータル・コスト・オブ・オーナーシップの考え方で、将来の保守費用を含めた全体のコストパフォーマンスが良いことを説明し、評価いただいています。こうしたことにより収益性の向上に取り組んでいますが、直近では部材の高騰と稼働減による効率悪化で相殺されている状況です。

Q. 過去にも何度かダウンサイクルで北京ファナックでの在庫調整がありました。今回は在庫調整の幅と影響が以前より大きいように思われ、中国事業の強さが以前ほどではないような気がしていますが、いかがでしょうか？在庫が払底するのはいつなのでしょう？

A. われわれが推定している中国市場のシェアは現在も維持できており、競争力を落としているとは思っていませんが、非常に競争の激しい市場ですので注意しています。

在庫は過去にない高いレベルになっているのが実態です。サプライチェーンの異常により納期が非常に長くなったことに対し、中国はコロナ禍からの急回復期にどんどん機械が欲しいという状況となり、われわれも経験のないような需要となりました。それが収まった後の需要が過去にないほど下がり、在庫調整と実需がなかなか盛り上がらないことが大きな要因と考えています。実需の減少はいずれ回復すると見えますが、回復ペースが想定よりもゆっくりであると認識しています。難しいところですが、在庫の払底は 2024 年以降ぐらいに伸びると見えています。

Q. 1Q のロボット受注減は一過性という認識で良いでしょうか？中長期でギガキャストなどの自動車の作り方の変化はどのように影響しますか？

A. 中国でのロボットはここしばらく非常に好調を保っており、代表例として EV の車体、バッテリー関係が目立ち、それ以外にもあらゆる産業で引き合いが強くなりました。報道によれば EV 関係は生産能力が需要を上回った状況となっているとのことで、投資が一段落している状況ではないかと思えます。但し、いずれ、色々な設備が動き稼働率が上がってくるため、受注減は一過性だと思えます。

ギガキャストの話では、スポット溶接ロボットがギガキャストに置き換わるでしょうが、もっと大きなハンドリングロボットや、高精度な金型を加工する機械が必要になります。ロボットがあまり使われていない最終組立でも、たくさんのロボットが使われるようになるでしょう。EV ではバッテリー関係のロボット需要が明らかに増えていますので、トータルで見れば需要は EV 化によって増えると思っています。EV は黎明期で作り方はどんどん変わると思っていますので、ロボットメーカーとして対応する能力が求められます。われわれの技術スタッフは非常に充実していますので、新しい製法に対応し、自動車メーカーや、自動車メーカー以外にもロボット化を提案していきます。

Q. FA 事業の受注は前四半期比で戻っていますが、今後はどうでしょうか？2Q の全体受注の見込みを教えてください。稼働率は 1Q も低かったと思いますが、2Q はもう一段下がるのでしょうか？

A. FA が 1Q で少し上がることは当初から予測し、その後の回復も期待していましたが、2Q は横ばい前後と見えています。在庫が徐々に減ることにより 3Q、4Q で少し戻ることを期待しています。

2Q の全体受注は少し下がる見込みですが、ロボットとロボマシンの在庫調整と、ロボマシンの中国を中心とした引き合いの弱さの影響を想定しています。

2Q の工場稼働レベルはおおむね 1Q と横ばいか少し下がる見通しです。

Q. 部品調達は増やしているのでしょうか？調達のスタンスを教えてください。

A. コロナ禍での部品不足では、特に半導体などの納期が非常に長かったため、だいたいが先までフォーキャストや注文を出して獲得に努めました。現在も一部余裕のないものについては、安全在庫のレベルまで増やそうと思っています。ただ、一般的に社内の部品在庫も増えていますので、サプライヤと丁寧に相談しながら発注を調整していきます。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。